

授業科目	介護概論				
担当者	橋本 卓也（実務経験者）				
実務経験者の概要	通所・訪問リハビリテーション及び福祉サービスを提供している福祉施設において障害当事者が安寧に、また自律（自立）して暮らせる介護・介助の実践や介護者に対する指導・助言等を行ってきた。特に重度障害者に対しては、自律の視点から、また、認知症高齢者についてはパーソンセンタードケアに基づいた介護・介助の在り方を実践・提供してきた				
学科名	理学療法学専攻	学 年	3年	総単位数	1単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

近年、重視されている「キュアからケアへ」という概念に内包されている「治療から全人間的ケアへ」「医学モデルから生活・社会モデルへの転換」という視点を共有するとともに、介護・介助実践におけるジレンマについても考察・言及する。また、重い障害をもつ人たちから提起された「介助者手足論」という考え方を通して利用者の尊厳を支えるケアのあり方や自立（自律）支援を目指すケアについて理解を深める。さらに「認知症」800万人時代といわれている現代における認知症高齢者に対する「家族介護」「在宅介護」のあり方を考える。

■ 到達目標

- ①日本が抱える介護問題の実態及びその要因について理解することができる。
- ②利用者本位、当事者本位の視点にたった介護・介助のあり方について考察することができる。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
日本が抱える介護問題の背景（日本の近代化と少子・高齢化問題）
- 第2回 介護の原理性（介護の本質及び全人間的視点にたったケアのあり方について）
- 第3回 介護・介助実践を通して生起するジレンマについて
- 第4回 アシュリー事件を通して見えてくる重い障害をもつ人たちに対する介助のあり方・価値等について
- 第5回 感情労働としてのケアワークについて
- 第6回 「介助者手足論」という理論から見えてくる利用者本位の視点に立ったケアのあり方とは
- 第7回 グリーフケアについて
- 第8回 認知症高齢者に対する家族介護・在宅介護のあり方について（NHKの映像を通して）

■ 評価方法

授業中に課すレポート（3回）:100%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

日頃から介護問題に関する記事・ニュース等について関心をもつこと。

■ 教科書

■ 参考図書

書 名：①母よ殺すな②アシュリー事件
著者名：①横塚晃一②児玉真美
出版社：①生活書院②生活書院

■ 留意事項

授業への積極的参加を望む。介護者－被介護者両者の視点から介護（介助）の在り方を学ぶこと

■ 講義受講にあたって